

平成28年度
教育委員会事務事業に係る外部評価表
(平成27年度事業対象)

○実施日 平成28年9月16日(金) 午前10時

○場 所 せたな町役場第1会議室

○外部評価委員

瀬棚区本町 鵜入 泰宏

大成区宮野 田嶋 潤

北檜山区松岡 東間千景子

北檜山区豊岡 千葉 憲之

平成28年度せたな町教育委員会実施事業評価一覧表（平成27年度事業対象）

総務・学校教育

事務事業（評価項目）		実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価
					H27
1	教育委員の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の開催(15回) ・学校訪問(幼稚園1園、小中学校全8校) ・全道・管内研修会出席 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会での案件審議、学校訪問での意見交換、研修会への参加など活動が円滑に行われた。 ・コミュニティースクール・小中一貫校等勉強会の開催。 	自己評価どおりで良い	A
2	学校経営の円滑な推進	<ul style="list-style-type: none"> ・定例校長会議における教育長示達の提出 ・各月毎の学校経営の重点及び学校経営報告書の提出 ・教育課程の適正な管理及び新学習指導要領 ・実施教職員の服務規律保持の指導 ・生涯学習指導主事の学校訪問（各学期毎） 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月開かれる定例校長会議において、教育長示達の中で教育行政執行方針の具現化に努めた。 ・各学校から毎月「学校経営の重点と経営報告書」、各学期末には「学校運営に係る自己点検票」、学年末には「教育執行方針達成度調査」の提出を求め、各校の実践事項や実情の把握に努めた。 ・小・中学校共に全面实施となった新学習指導要領の円滑な実施とその充実に努めた。 ・教職員の服務規律等の厳守については、定例校長会議・教頭会議の中で資料を用いて指導を行った。 ・町生涯学習指導主事の学校訪問は、各学期毎の定期訪問(計24回)、教育局指導主事訪問(計16回)、必要に応じて随時実施し、各校の学校経営・学習指導・生徒指導等に関わる指導・助言を行った。 ・教職員の服務規律指導のさらなる徹底。 	自己評価どおりで良い	B
3	学力の向上対策	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査及び町独自に標準学力検査を実施 ・「せたな町学力向上改善プラン」に基づく学習指導の改善 ・読書習慣の確立に向けた取り組みの推進 ・家庭と連携した家庭学習の習慣化については、教委配付の「家庭学習の手引き」、「家庭学習のすすめ」を参考に、各学校で取り組みが進んでいる。 ・長期休業中や放課後の学習指導、チャレンジテ 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査については、採点結果を分析し、日常の学習指導や各学校の「学力向上改善プラン」作成に生かした。 ・各学校においては、年度当初実施の標準学力検査や全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、教育委員会作成の「せたな町学力向上改善プラン」をもとに学校独自の「学力向上改善プラン」等を作成し、学習指導等の改善に取り組んだ。 ・各校、日課に朝読書の時間を入れるなど、児童生徒 	自己評価どおりで良い	B

		<p>スト問題などの取り組みについても、学校の実態に合わせて行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジテストへの全校参加 ・久遠小学校へ教員免許を持った学習支援員を配置し、複式学級の指導支援に当たらせている。 	<p>の読書活動の習慣化に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町教委作成の「家庭学習の手引き」や「家庭学習のすすめ」により、家庭と連携しての取り組みが進められた。また、各校でも、学校独自の手引を作成するなど工夫した取り組みが行われた。 ・チャレンジテストへの全校参加や、長期休業中の学習日の設定、放課後学習等、学校ごとの実態に応じた工夫をしながら学力向上に取り組んだ。 ・学習支援員を配置することで、人数が多い複式学級において間接授業の際の児童の疑問やつまづきなどに適切に対応することができ、学習理解を深めることができた。 ・道教委の公表について検討を行う。 		
4	道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師を中心に資料の活用と指導をはかっている ・「道徳の時間」の改善・充実に向けての指導 ・「私たちの道徳」の活用と指導の充実 ・参観日等における「道徳の時間」の授業公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・「私たちの道徳」を活用した「道徳の時間」の改善・充実については、町内全校において日常実践及び校内研修等で取り組みがされている。 ・参観日等における「道徳の時間」の授業公開については、年間計画に位置付けられると共に、授業参観等において公開され、学校と家庭の連携した取り組みが進められた。 ・「道徳の時間」の公開授業は行われたが、教科や参観日等の授業時数の関係から全ての学校で一部の学級が実施されていないため、計画的な公開を図る必要がある。 ・道徳教育推進教諭を指導する研修会への参加が行われていないため研修会への参加をはかる必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
5	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターの校務分掌への位置づけと校内支援委員会の開催（全校） ・「個別の教育支援計画及び指導計画」の作成 ・「特別支援教育支援員」の配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上特別な支援を必要とする児童生徒の指導に関して、各校特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援委員会や校内研修会を積極的に開催し、他の職員との共通理解を基に連携して日常生活の指導や学習支援が行われた。 ・当該学校では、特別支援学級在籍者を中心に、長期 	自己評価どおりで良い	A

			<p>的支援を見据え「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成が進められた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会提供の「児童・生徒の学習・行動面に関する困難を調べるチェックリスト」の活用も進められ、高機能自閉症・LD・ADHDなどの気づきに役立てられた。 ・特別支援教育支援員は、町内1園4校に計12名が配置され、特別な支援を要する児童生徒の生活・学習支援を行い、児童生徒のつまづきなどに随時対応することができた。 <p>(北檜山幼稚園3名、北檜山小学校4名、若松小学校1名、瀬棚小学校2名、北檜山中学校2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援連携協議会の開催と連携の強化をはかる。 		
6	外国語指導助手等の派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT 各中学校へ週1～2回派遣 馬場川小に月1～2回派遣 (火…瀬棚中 水…北檜山中 木…大成中) ・J-ALT 各小学校週1回派遣 (火…北檜山小・馬場川小、水…若松小、木…久遠小、金…瀬棚小) 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語指導助手(ALT)を各中学校へ週1～2回派遣した。ALTは教科担任と打ち合わせて活動計画を作成し、学習が進められた。 ・小学校5・6年の外国語活動が必修となったことから、町独自にJ-ALTを雇用し各小学校に週1回派遣した。指導に当たっては、担任とJ-ALTが打ち合わせて活動計画を作成し、児童が楽しみながら英語の語学力を身につける学習が進められた。 ・希望する小学校については、ALTの空き時間を活用しての追加派遣をし、ネイティブ英語に触れる機会やコミュニケーション能力の育成に努めた。 ・ALTとJ-ALTの今後の活用方法について検討が必要 	自己評価どおりで良い	A
7	生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校での全教職員による生徒指導體制の確立 ・道教委のスクールカウンセラー派遣(拠点校:北檜山中学校・年28日) ・生涯学習指導主事への相談(学校訪問及び随時) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校においては、いじめ未然防止プログラムをもとに、管理職を中心に組織的な対応が進められた。 ・不登校対策、中1ギャップ、小1プロブレム、いじめ対策等の指導を行った。 ・いじめ対策については、全校で年間最低2回の「いじめアンケート」や教育相談が実施され、未然防止・ 	自己評価どおりで良い	B

			<p>早期発見・早期対応の取り組みが行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の調査によるいじめ認知件数は13件あったが、管理職のリーダーシップの下、組織的に対応し、解決に向けて取り組んだ。 ・北檜山中学校へ道教委のスクールカウンセラー派遣を継続し、学校と連携して不登校生徒の対応に当たった。 ・今年度の町内の不登校児童・生徒数は、6名（小学校1名、中学校5名）であった。 ・町教委としては、不登校児童生徒の状況について毎月報告を求め、実態把握に努めるとともに、町指導主事が必要に応じて各校を訪れ、いじめ・不登校についての情報収集や対応等について指導助言を行った。 ・不登校生徒の解消に努める。 		
8	教職員の資質能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校における校内研修の促進（檜山教育局指導主事及び町指導主事による学校指導訪問） ・せたな町教育研究会の充実（町教育研究大会の開催、今金町との2町授業交流会、サークル活動の活発化） ・町内各種教育団体への支援（生徒指導連絡協議会、特別支援学級教育研究会、へき地複式教育研究会等） ・校内研修コーディネーターによる若い教員の研修活動の推進 ・北海道教育研究所、檜山教育局主催の研修講座への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校では、研修部を中心に研修計画が立てられ、それに沿って校内研修が推進されていた。 ・教育局指導主事及び町指導主事による学校指導訪問は、予定どおり進められ、各校の経営状況や児童生徒の実態把握、その後の指導・助言に大いに役立った。 ・町教育研究会及び町内各種教育団体の活動は、予定どおり活発に行われ、教職員の資質向上に寄与した。 ・北檜山小学校を本務校として、今金小学校を兼務校とする校内研修コーディネーターを中心として、師範授業や授業研究、2校の若い先生の合同研修等が積極的に進められ、力量アップが図られた。 ・各種研修事業については、道研、ミニ道研、学力向上に関する研修会、生徒指導研などに参加した。 ・研修へのさらなる参加を促す。 	自己評価どおりで良い	B
9	食育教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「栄養教諭を中核とした食育推進事業」 ・学校の要望に応じて学校栄養教諭を派遣しての「食に関する指導」 ・食の安全性の認識を図る給食試食会 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校や中学校において、栄養教諭による食育教育を中心とした「食の指導」を計画し、児童生徒の食に対する意識を高めた。 ・PTAや地域と連携した地元食材を使った調理実習 	自己評価どおりで良い	B

		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学校給食センター見学 ・学校給食だよりの発行（毎月） ・安全安心な地元食材の活用 ・町内のアレルギー児童生徒のデータ収集とアナフィラキシーショック等のアレルギー症状についてのマニュアルの作成と配布 	<p>も開催されるなど、各校で工夫された食育教育が推進された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー児童生徒の情報を共有することで、給食センターと学校の連携を深めると共に、アレルギーへの理解や事故の未然防止を図った。 ・せたな町食育推進検討委員会において、児童生徒の食に関する意識を高める方策について充実した話し合いを進めることができた。 ・アレルギーによる事故を未然に防ぐため、また、事故が起きても被害が最小限に止まるよう、アレルギー児童生徒の適切な把握を行う。 		
10	幼児教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度入園児童数 33名（3歳児9人 4歳児14人 5歳児10人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活を通して友だちと関わりながら基本的な生活習慣や道徳性を身につけるなど、就学前幼児教育がなされている。また、特別支援を必要とする園児には、保護者の同意を得ながら特別支援教育支援員3名を配置し、個に応じた支援を行っている。 ・認定こども園への統合事務。 	自己評価どおりで良い	A
11	学校健診事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒内科検診 514名実施 ・児童生徒尿検査 515名実施 ・児童寄生虫卵検査 151名実施 ・児童生徒歯科検診 517名実施 ・児童生徒心臓（心電図）検診 108名実施 ・児童生徒耳鼻咽喉科検診 280名実施 ・中体連駅伝選手心臓検診 54名実施 ・児童生徒眼科検診 501名実施 ・就学时検診 46名実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と関係機関との連携の下で、学校保健法に定められている各種健診を計画的に実施し児童生徒の健康管理に努めた。 ・色覚検査の今後の実施。 	自己評価どおりで良い	A
12	地域に開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・経営方針の説明、学校だよりの配布 ・学校評議員の委嘱 ・学校支援地域ボランティアの人材を外部講師として招聘 	<ul style="list-style-type: none"> ・各校では、年度当初の参観日等で経営方針の説明を行うとともに、学校だより等で日常の児童生徒の様子を保護者や地域に知ってもらえるよう努めた。 ・学校評議員の視点から、学校経営等について意見をいただき、地域の意向を把握した学校運営が行われた。 	自己評価どおりで良い	B

			<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域ボランティアについても、各校の計画に沿って積極的に活用された。 ・学校評価については、自己評価（学校評価、児童・生徒評価、保護者評価等）が実施され、それらの結果については、PTAや参観日、学校だより等を用いて公表された。 ・統廃合に伴うコミュニティースクールの導入について検討が必要。 		
1 3	子どもの安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校での「危機管理マニュアル」及び「火災や地震時の防災訓練」の点検・見直し、及び学校の立地条件に応じた火災・地震・津波・洪水などの実践的な対処や訓練が実施されている。 ・交通安全教室・防犯教室・薬物乱用防止教室等の実施 ・各区毎に地域の関係機関・団体との情報交換を行い、町内安全パトロール実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの安全を守る連絡協議会～夏休み前に開催 ・生徒指導連絡協議会～各学校の決まり確認、子どもの様子等の情報交流、研修会の開催 ・町内各学校の通学路の安全点検を随時実施している。 ・幼稚園・全学校へさすまたを配置した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校における「危機管理マニュアル」の点検と見直しが行われ、災害時における立地条件に即した対処・訓練が行われた。 ・各学校では、防犯訓練・防犯教室など実際の場面に即した訓練を実施することで、危機管理下における児童生徒の安全確保を図った。 ・各区内の関係機関・団体と連携しながら、登下校時や帰宅後の安全指導、及び祭典時の巡回指導などに努めた。 ・防災無線を活用し、不審者情報の提供を行った。 ・通学路安全プログラムの作成。 	自己評価どおりで良い	B
1 4	児童生徒への就学援助	<ul style="list-style-type: none"> ・要保護世帯 <ul style="list-style-type: none"> 小学生 3世帯 3名 中学生 4世帯 5名 計 7世帯 8名 ・準要保護世帯 <ul style="list-style-type: none"> 小学生 24世帯 35名 中学生 28世帯 30名 計 52世帯 65名 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と連携のもとで、経済的援助を必要とする世帯に対して学用品費・修学旅行費等への支援をした。 ・支給認定基準のさらなる拡大について検討。 	自己評価どおりで良い	A

15	学校教育環境の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> ・久遠小学校教室天井補修工事（1,760,400円） ・瀬棚小学校トイレ改修工事（1,425,600円） ・瀬棚中学校学校体育館床改修工事（1,350,000円） ・大成中学校体育館梯子改修工事（1,678,320円） 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる学校はあるが、児童生徒が安全安心な学校生活を送るため、必要箇所の修繕については随時実施し適正な維持管理に努めた。 ・瀬棚中学校ボイラー、瀬棚中学校外壁・窓枠、瀬棚小学校フェンス、各学校のバリアフリー化等。 	自己評価どおりで良い	B
16	教育の情報化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校ICT教育環境整備業務 9,828千円（北檜山小・若松小の校内無線LAN整備及び教育データセンターの構築） ・中学校ICT教育環境整備業務 1,944千円（教育データセンターの構築） ・小学校教師用パソコン購入事業 5,066千円（北檜山小学校17台、馬場川小学校2台、若松小学校7台） ・小学校教室用パソコン購入事業 1,561千円（北檜山小学校6台、若松小学校3台） ・中学校教室用パソコン購入事業 2,085千円（大成中4台、瀬棚中4台、北檜山中4台） 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器を活用した授業の工夫・改善が図られた。 ・ICTを活用したことにより生徒の授業への集中がみられた。 ・授業・文化祭などで児童生徒が工夫して活用していた。 ・教員のICT活用指導力の向上を図る。 	自己評価どおりで良い	B
17	フッ化物洗口事業の推進（新規）	<ul style="list-style-type: none"> ・フッ化物洗口事業に係る保護者説明会及び教員説明会の開催・町内各校の保護者及び教員に出席していただき、フッ化物洗口事業についての内容説明を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施予定のフッ化物洗口事業について、事業実施における背景や安全性などへの理解を深めるとともに、実施学校からの意見を聴取するなど、事業実施に向けた情報交換が図られた。 ・学校教員への説明会（各校1回） ・保護者への説明会（各校1回） 	自己評価どおりで良い	B
<p>（評価指標） A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である</p>					

社会教育・社会体育

推進項目 (事業名)		事業の目的 (目標)	実施状況	自己評価 (成果と課題)	外部評価委員意見	評価 H27
18	幼児教育の推進①	幼児教育に関する学習機会の拡充	・平成27年度において乳児教育に関する学習機会提供事業の実施実績なし	・保健福祉課と連携し、健診時などを利用した学習プログラムの提供を検討する。	自己評価どおりで良い	D
19	幼児教育の推進②	子育ての情報交換や交流の場の提供	・ブックスタート事業 通年月1回 ボランティア15名 ・6/12 地域子育て。～スマホ社会の子どもたち 参加者36名 (再掲:成人教育①) ・3/1 地域子育て。～ストレッチコミュニケーション～ 参加者21名 (再掲:成人教育①)	・子育て中の方と子育てを終えた方の情報交流や地域・学校・家庭間の交流の場の提供ができている。特に、乳幼児をもつ保護者は孤立しやすい環境にあるが、ブックスタートを通じて地域の方と接することで、交流人口の増加が期待できる。 ・地域で子育てを進めるための保護者のニーズ(悩みや実態)を把握する。	自己評価どおりで良い	B
20	幼児教育の推進③	関係機関や団体等との連携と協力体制の確立	・ブックスタート事業の実施 (再掲:読書活動②) ・学校ブックフェスティバル (再掲:読書活動②) スタッフ19名	・ブックスタートに関しては、保健福祉課・ボランティア・教育委員会が連携し、実施することができた。 ・ブックフェスティバルに関しては、小学生だけでなく保育所も参加し、保育所・学校・ボランティアが協力し、取り組むことができた。 ・幼稚園や保育所において活用できる社会教育事業(プログラム)の検討と提供が必要である。	自己評価どおりで良い	B
21	少年教育の推進①	自然体験や生活体験、集団活動などの学習機会の提供	・9/19 自然体験活動事業(瀬棚小) 参加者小学生20名 保護者2名 ・10/29 性教育(瀬棚中)	・学校の枠を越えた交流や集団での体験は、子どもたちの自信や協調性が身についていくため継続して取り組みたい。 ・学校と連携して、児童生徒の生活課題・集団活動に関する取組みが継続されている。 ・学校・団体・学童保育所との連携や、休日や放課後を活用した様々な体験プログラムの提供が必要である。	自己評価どおりで良い	B
22	少年教育の推進②	異世代交流や地域での交流活動など、地域と連携した学習活動の拡充	・素敵にアート教室 7/26 グリーンパレス 小学生・保護者33名 12/10 ふれあいプラザ 小学生・保護者30名 協力 檜山北高等学校美術部及び農業クラブ	・高校生が講師となり子どもたちに指導することで、異世代交流がなされ和やかな雰囲気の中で事業が進められている。また、親子での交流になっており、非常に好評となっている。 ・事業の目的を検証し、様々な体験プログラムの提供が必要である。	自己評価どおりで良い	C

23	青年教育の推進①	自然体験や生活体験、集団活動等を通じて主体的に学ぶ意欲を高める学習機会の拡充	・平成27年度において青年教育に関する学習機会提供事業の実施実績なし	・青年層全般の活動機会を活性化するための計画（事業）の見直しが必要である。	自己評価どおりで良い	D
24	青年教育の推進②	異世代交流や地域での交流活動など、地域と連携した活動がしやすい環境の整備	・平成27年度において青年教育に関する学習機会提供事業の実施実績なし	・青年層全般の活動機会を活性化するための計画（事業）の見直しが必要である。	自己評価どおりで良い	D
25	青年教育の推進③	地域担い手としての自覚を促す学習機会の提供	・平成27年度において青年教育に関する学習機会提供事業の実施実績なし	・青年層全般の活動を活性化するための計画（事業）の見直しが必要である。	自己評価どおりで良い	D
26	青年教育の推進④	リーダーとなりうる人材の育成	・平成27年度において青年教育に関するリーダー育成事業の実施実績なし	・青年層全般の活動機会を活性化するための計画（事業）の見直しが必要である。	自己評価どおりで良い	D
27	成人教育の推進①	地域づくりへの理解と認識を深めるための学習機会の提供	・6/12 地域子育て。～スマホ社会の子どもたち～ 参加者36名 ・3/1 地域子育て。～ストレッチコミュニケーション～ 参加者21名	・子どもたちがおかれている環境の理解と認識を深める学習機会と同時に、地域の担い手となる子どもたちを地域で育てていく環境づくりに繋がっている。 ・地域課題の適切な把握とそれに対応した学習機会の提供が必要である。	自己評価どおりで良い	B
28	成人教育の推進②	地域活動への参画支援	・せたな町女性団体連絡協議会補助金 340,000円 ・せたな町PTA連合会補助金 190,000円 ・各団体の事業への運営協力 ・学びあいネットワーク交流事業 丹羽家政学級 2/3（丹羽活性化センター）町民14名	・各団体運営に対する活動補助・支援が継続的に進められている。 ・各団体について、会員の減少に伴い事業の縮小等があるが、それぞれ自主的な活動を行っている。 ・地域学習の拡大に向けた取組みが行われている。 ・地域活動への導きなど、今後の女性団体の在り方について検討が必要である。 ・各種事業内容の仕組みや活用方法などの周知徹底が必要である。	自己評価どおりで良い	B

29	成人教育の推進③	地域人材の把握と教育活動への参加促進及びリーダーの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア登録数 北檜山区57名、瀬棚区49名、大成区39名 ・平成27年度においてリーダー育成事業の実施実績なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材は、学校で活用する他に地域の活動でも活用されている。 ・ボランティアの募集について継続が必要である。 	自己評価どおりで良い	B
30	成人教育の推進④	家庭教育に関する学習機会の支援と家庭・学校・地域の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・6/23 せたな町PTA連合会研修会（檜山PTA連合会せたな大会と合同開催） 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動で子どもたちを取り巻く課題に対して、連携して学習機会を設け取り組んでおり、教委としては、課題の導きや専門的な人材の情報提供を支援しており、自発的な活動につながっている。 ・各学校（PTA）における研修活動への支援とコーディネーターに努める。 	自己評価どおりで良い	B
31	高齢者教育の推進①	高齢者の知識や経験を地域に生かす社会参加活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア登録数 北檜山区57名、瀬棚区49名、大成区39名 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の要望に応じて対応してきている。 ・学校や地域における交流活動を進めることが必要である。（高齢者②との関連） 	自己評価どおりで良い	B
32	高齢者教育の推進②	異世代交流などの場の提供と拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度において異世代交流事業の実施実績なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校やさわやかサロン等における交流活動を進める。（高齢者①との関連） 	自己評価どおりで良い	D
33	高齢者教育の推進③	いきがいを高める多様な学習機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各区の高齢者大学の開設 ・北檜山いきがい学園61名・大成くおん大学27名・瀬棚寿大学11名 3区合同事業の開催 ・入学式・町外視察研修・修学旅行・修了式 	<ul style="list-style-type: none"> ・各区それぞれ特色を生かした活動が進められた。 ・学生の要望や社会情勢の動きを取り入れた学習が行われ、それぞれ充実した内容となっている。 ・合同事業も定着し、区を超えた学生相互の交流が図られた。 ・保健福祉課・町民児童課等と連携した事業の推進を図っていききたい。 	自己評価どおりで良い	A
34	芸術文化の推進①	芸術・文化に関する鑑賞機会の提供と内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・7/28 M-TOYBOX 鑑賞事業（町民ふれあいプラザ）町民52名 ・9/5 人形劇「ひょっこりひょうたん島」鑑賞事業（町民ふれあいプラザ）町民300名 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃、芸術文化に触れる機会が少ないことから、ニーズに対応した鑑賞機会を提供することができた。 ・今後も様々な分野の芸術鑑賞事業について計画的に継続して提供したい。 	自己評価どおりで良い	B
35	芸術文化の推進②	文化団体の育成と自主的活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・せたな町文化協会補助金 160,000円 ・せたな町民文化祭実行委員会補助金 463,221円 ・町民文化祭（3会場）（展示：10/31～11/2 発表：11/7、11/8、11/15）町民1,200名 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体運営に対する活動補助・支援が継続的に進められている。 ・文化協会独自事業のほか、教育委員会と連携した共催事業に取り組むことで、団体活動の活性化と活動の幅が広がった。 ・団体との十分な協議により、効果的な事業実施について検 	自己評価どおりで良い	B

			<ul style="list-style-type: none"> ・7/28 M-TOYBOX 鑑賞事業（町民ふれあいプラザ）町民 52 名（再掲：芸術文化①） ・9/27 サンデーカルチャー教室（町民ふれあいプラザ）町民 37 名 	討が必要である。		
36	文化財保護の推進①	文化財・郷土資料の保護・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・各区郷土資料施設において、有形文化財の保護・一般公開。 ・大成中学校の総合的な学習の時間での指導業務（久遠神楽） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財等の保護については、適正な維持管理を行っている。 ・久遠神楽については、大成中学校が総合的な学習の時間において継承活動を行っている。（無形文化財の保存） ・テーマを設定した展示会等の開催を計画する。 ・専門職員の配置による鑑賞者へのサービスの向上が必要である。 	自己評価どおりで良い	C
37	文化財保護の推進②③	郷土芸能伝承活動の推進・発表等の機会の提供による後継者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・せたな町郷土芸能団体連絡協議会補助金 162,400 円 ・町民文化祭をはじめ、町内外のイベントへ積極的に参加し自主的活動を行っている。 ・大成中学校の総合的な学習の時間での指導業務（再掲：文化財①） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体運営に対する活動補助・支援が継続的に進められている。 ・団体の会員減少により活動休止している団体もあるが、自主的な活動により、郷土芸能伝承を図っている。 ・学校との協働により、学校経営に位置づけた取組みとして定着している。 ・伝承活動を継続できるよう今後も支援が必要である。 ・大成中学校の生徒数の減少により、各パート構成が困難に成りつつある。今後の伝承活動の方向性も検討する必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
38	国際交流の推進①	国際感覚を身につけるための学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・少年少女英会話教室 5月～3月 小学1～4年生 23名 ・初心者英会話教室 5月～3月 中学生以上 13名 	<ul style="list-style-type: none"> ・少年少女向けは、小学1～4年生と幅を広げ、多くの参加者が募った。また、年代に併せた指導を行ったことで、小学5年生から必修の英語の授業へスムーズに取り組むことができてきている。ボランティアで指導助手を配置したことで、子ども達も英語に親しみやすくなっている。 ・初心者英会話は、場面に併せた英会話や歌やクイズを織り交ぜた授業になっているため、非常に親しみやすく、また地域の人たちのコミュニケーションの場としても活用されている。 ・対象学年を縮小することを検討する。 	自己評価どおりで良い	B

39	国際交流の推進②	姉妹都市交流における青少年・成人交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・せたな町姉妹都市交流推進協議会補助金 150,000 円 ・ハンフォード市への派遣事業（中止） ・ジョン神塚ピアノコンサートの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体運営に対する活動補助・支援が継続的に進められている。 ・ジョン神塚ピアノコンサートはハンフォード市との姉妹交流のつなぎ役となっている。 ・ハンフォード市との連絡調整を早期に進める必要がある。 	自己評価どおりで良い	C
40	国際交流の推進③	留学生受け入れ家庭の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度において留学生受け入れ事業の実施実績なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズを把握して対応する。 	自己評価どおりで良い	D
41	読書活動の推進①	ブックスタート事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ブックスタート（ブックスタートボランティア 15 名登録） ・4 月～3 月 毎月 1 回 3～4 歳児健診時に実施（対象者 30 名） ・保健福祉部局との連携事業（1.5 歳児・3 歳児・5 歳児健診対象者にも読み聞かせ） ブックスタート町外視察研修（2015/5/21 今金町）5 名参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタートを通じた、初めての本の触れ合いは好評となっており、ブックスタートボランティアと保護者が話をしながら、本の楽しみ方を伝えることができている。 ・フォローアップにも、これまでブックスタートを受けた子ども達が家庭や地域での本の親しみを受けていることもあり、たくさん子ども達は真剣に耳を傾けている様子が見受けられる。今後も継続し、本に親しむ環境づくりをしていきたい。 	自己評価どおりで良い	A
42	読書活動の推進②	読み聞かせなど子どもに関わる読書ボランティア活動の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・北檜山区：おはなし広場（年 6 回）・読み聞かせイベント（年 8 回） ・大成区：図書館イベント（年 3 回）・移動図書時の読み聞かせ（年 10 回） ・ブックスタート（毎月 1 回）（再掲：読書活動①） ・7/22 ブックフェスティバル（瀬棚小） ・図書館 de カフェ（2015/10/27 情報センター）（2016/2/25 情報センター） ・7/14 2/25 移動図書館ブックン（若松小・馬場川小） ・ブックスタート町外視察研修（2015/5/21 今金町）5 名参加（再掲：読書活動①） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各区で実施されている読み聞かせの他にも、小さいうちから図書館に足を運ぶ環境づくり（図書館 de カフェ）また、そのフォローアップとして身近な場所での読み聞かせと本の貸出し（ブックフェスティバル）など新しい活動の場を展開することで、色々な形でボランティアが行われており、今後の発展が期待できる。 ・事業から自発的活動への発展を期待する。 	自己評価どおりで良い	A

4 3	読書活動の推進③	図書館・学校図書館・関係団体との連携協力による読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックフェスティバルの開催（瀬棚小）（再掲：読書活動②） ・毎月 移動図書館の実施（若松小/久遠小/大成中/長生園/馬場川小） ・読書感想文集の発行・配布 ・今金町移動図書館車「ブックン」による移動図書（若松小・馬場川小）（再掲：読書活動②） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業における連携・協力体制は確立されてきている。協働した取組みも確立されてきている。 ・特に児童生徒の日常的な読書活動促進の取組みが必要である。 	自己評価どおりで良い	A
4 4	読書活動の推進④	図書・視聴覚などの学習教材の充実	<p>図＝図書購入（一般書・児童書・専門書等） 雑＝雑誌 新＝新聞 D＝DVD等 リ＝リクエスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報センター 図 364 冊 雑 101 冊 新 2 種 D 0 本 リ 随時対応 ・大成図書館 図 471 冊 雑 271 冊 新 2 種 D 0 本 リ 随時対応 ・瀬棚図書センター 図 210 冊 雑 115 冊 新 0 種 D 12 本 リ 随時対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の範囲内で効率よく購入できている。 ・図書システムを活用し各施設ごとの相互貸借も進んでいる。 ・読書普及のため、リクエストには積極的に対応していく必要がある。 	自己評価どおりで良い	A
4 5	生涯スポーツの推進①-1	スポーツの日常化に必要な学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・4/25 親子体操（ひろみちお兄さん体操教室）（町民体育館）300 名 ・5月～10月 計6回 キッズ体操教室（町民体育館）21 名 ・7/27～7/31 初心者水泳教室（北檜山区・瀬棚区）（町民プール）小学1・2年40 名 ・1/12～1/14 初心者スキー教室（北檜山区・瀬棚区）（丹羽スキー場）18 名 ・1/12～1/21 スキー教室（大成区）（大成スキー場）町民38 名 ・3/26 らく楽筋トレ体操（町民ふれあいプラザ）町民25 名 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教室とも、運動の基礎と実践を学習する機会として大いに活用され、技術の向上、日常活動の促進につながっている。 ・種目によって町内指導者の確保の困難である。 ・水泳教室については年代別（レベル別）指導について検討が必要である。 	自己評価どおりで良い	B

46	生涯スポーツの推進①-2	スポーツの日常化に必要な学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・10/3 町民駅伝競走大会（大成区） 74名 ・10/12 町民歩こう会瀬棚会場 16名 ・1/16 子ども体力チャレンジ祭（町民体育館） 48名 ・2/8 町民スキー大会（丹羽スキー場） 38名 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体との連携のもと、計画通り進められており、スポーツ活動の促進が図られている。 	自己評価どおりで良い	B
47	生涯スポーツの推進②	誰でも気軽に行うことができる軽スポーツ等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度において、軽スポーツやニュースポーツ事業の実施実績なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に取り組める軽スポーツを体験する機会を提供し、日常的な体験健康づくり活動に結びつけていく必要がある。 	自己評価どおりで良い	D
48	生涯スポーツの推進③	スポーツ団体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・せたな町体育協会補助金 789,000円 ・せたな町スポーツ少年団連絡協議会補助金 950,000円 ・キャンプタウンきたひやま推進の会補助金 344,000円 ・せたな町スポーツフェスタ実行委員会補助金 100,783円 ・総合型地域スポーツクラブとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体において計画的な活動が行われている。 ・各団体運営に対する活動補助・支援が継続的に進められている。 ・スポーツ団体と連携した事業の展開 ・スポーツフェスタの在り方について検討が必要 	自己評価どおりで良い	B
49	生涯スポーツの推進④	指導者の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度において指導者養成事業の実績なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体の要望や、スポーツ活動促進のために必要な知識・技術を習得できる様々なプログラム提供を図る必要がある。 	自己評価どおりで良い	D
50	海洋スポーツの推進①	青少年に対する自然観察などを含めた体系的な学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・5/16・10/22 海の自然観察会（海藻押花）（B&G艇庫） ・6/12 川の自然観察会（講話）（馬場川） ・7/10 水辺の安全教室着衣泳（B&Gプール）（再掲：海洋②） ・7/14 海の自然観察会（漂流物調査）（B&G艇庫） ・9/14 森の自然観察会（原田森林） ・10/23 海の環境を守る植樹教育活動（植樹祭）（松岡地区） 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業は計画どおり実施された。 ・学校との協働により、学校経営に位置づけた取組みとして定着している。 ・（要望に応じて）各学校に学習プログラムを提供する。 	自己評価どおりで良い	B

5 1	海洋スポーツの推進②	水の事故を防ぐための安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアライフセービング教室（中止） ・7/10 水辺の安全教室着衣泳体験（B&Gプール）瀬棚小学校児童 ・7/11 レスキュー講習会（B&G艇庫）町民10名 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の都合で開催できなかった事業もあったが、概ね計画通り実施された。 ・学校との協働により、学校経営に位置づけた取り組みとして定着している。 ・水の事故に関する日常的な普及啓発が必要である。 ・着衣水泳については（要望に応じて）各学校で実施する。 	自己評価どおりで良い	B
5 2	海洋スポーツの推進③	マリンスポーツ体験や講習会等の学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・6/27 プールでヨット体験会・カヌー体験会（B&Gプール）小学生8名 ・7/20 海の日（カヌー・SUP・セイリング）教室（B&G艇庫）町民4名 ・8/29 カヌーで川下り体験（利別川）町民6名 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業は計画どおり実施された。 ・海洋スポーツ愛好者にとっては、計画的に体験できるプログラム提供になっている。 ・多くの町民の関心を高めるよう、日常的な海洋スポーツの普及啓発が必要である。 	自己評価どおりで良い	B
5 3	海洋スポーツの推進④	海洋クラブ・指導者会の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋クラブ補助金 124,547円。 ・日常的な活動の場の提供及び指導実施 ・平成27年度においてリーダー養成事業（研修会等）の実績なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋クラブに対する活動補助・支援が継続的に進められている。 ・リーダー養成により指導体制の充実を図る必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
5 4	海洋スポーツの推進⑤	専門指導職員の育成・配置	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度において専門指導職員の配置（増員）なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者養成（講習会派遣）が年次計画で進められている。 ・B&G運営に必要な専門指導職員の配置の他、各種事業を進めるためのリーダー養成を計画的に進める必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
5 5	社会教育・社会体育施設の整備①	施設機能の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・大成農村広場照明灯安定器等取替修繕 567,000円 ・真駒内球場フェンス改修 540,000円 ・三杉球場給水管漏水修繕 442,800円 ・大成スキー場第2キャリーエースワイヤーロープ交換修繕 464,400円 ・B&G海洋センター体育館遠赤外線放射暖房機修繕 597,240円 ・大成町民プール管理棟改修工事 7,020,000円 ・トレッドミル購入事業 1,339,200円 ・トランポリン購入事業 2,710,800円 	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設とも住民の日常活動及び社会教育・社会体育事業の拠点として効果的に利用されている。 	自己評価どおりで良い	B

			・クロストレーナー購入事業 1,223,640円			
56	社会教育・社会体育施設の整備②	施設の総括的かつ効率的な維持と運営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・町民プール基本設計業務 ・旧瀬棚商業高等学校の再利用計画（瀬棚区社会教育施設等の統合協議） 	<ul style="list-style-type: none"> ・町民プールの新設について積極的に協議された。 ・旧瀬棚商業高等学校の再利用について積極的に協議された。 ・老朽化に伴い、町民プールを早期に建て替える必要がある。 	自己評価どおりで良い	C
<p>(評価指標) A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である</p>						